

# 新会社設立急ぎ「いいかげんさ」露呈

## 糸魚川抜きの見切り発車反対の修正案に市民ネット改革も賛成

私の所属する総務常任委員会の審査が15日に行われました。今回の定例会で一番注目されている並行在来線対策事業（新会社設立）について審査する委員会です。並行在来線対策事業だけで1時間近くかかりましたが、重大な事実がいくつも明らかになりました。

### 会社設立の合意文書はなかった

そのひとつは会社設立についての合意文書はないという事実です。新会社設立については新潟県と妙高市、上越市、糸魚川市が話し合いを進め「合意した」というのですが、4自治体が合計で1億5000万円の出資（このうち上越市は1565万円出資）をして立ちあげるといふのに確認書とか覚書とかいうものをいっさい交わしていないのです。税金を使ってやる仕事としてはあまりにもご粗末と言わざるをえません。



2つ目。出資金をどうするかなどの話し合いをしたものの、どういう内容で経営をしていくのかについては基本的なことが何一つ決まっていないことも明らかになりました。これもびっくりでした。糸魚川市の米田市長が、「詳細

を議会や市民に出せない状態にある。三セク会社がどういう形でいくのか、しっかりしたものではないと提案できない」（上越タイムス6月12日付）とおっしゃるのは当然です。

### 開業準備会で決めたことと矛盾

委員会では、新潟県並行在来線開業準備協議会で決めたことと今回の会社設立の理由に矛盾があることも指摘しました。

同協議会の平成22年度事業計画は2日、書面開催による総会で決められたといっています。その「平成22年度事業計画」の中で、「経営主体の設立準備等」については、「並行在来線の経営計画に基づき、経営主体の設立準備を進める」とあります。経営計画づくりの作業は同協議会の経営委員会（田中辰雄委員長）で進められており、7月には経営計画素案を発表できるところまでできています。

ところが、今回の会社設立提案にあたっての市の説明では、「経営委員会では計画を詰めることができないうので、新会社でいつときも早く経営計画づくりをしていかなければならない」とのべてきたのです。

自分たちで会社設立に向けた手順を決めながらそれを守らないなど一連の「いいかげんさ」には日本共産党議員団以外の議員からもきびしい批判の声が出ています。

### 「出資金を減額し予備費に計上」する修正案を提出。賛成は3人。

並行在来線は存続させねばなりません、新

### シリーズ 上越市内の橋

#### 第42回 世十郎橋

「世十郎橋」と書いて「せじゅうろうばし」と読みます。保倉川の支流にかかった小さな橋です。大島区岡地内にあります。



「世十郎」という名前はここの小字名からきているといえます。この橋に初めて出合った時、欄干のホタルの図柄が目に入りました。図柄の通り、時期になると、ホタルがたくさん飛び交います。橋長は約13m。竣工は1997年（平成9年）の3月です。

会社の将来見通しが示されない中で、出資を認めるのでは無責任です。それに、今回の新会社設立については糸魚川市の参加なしにありえませんが、見切り発車してはいけません。

総務常任委員会で私は、「新潟県並行在来線開業準備協議会負担金及び新潟県並行在来線会社出資金については、現段階では、どういう会社となるのか基本的な柱すら見えず、市民に説明できないため、関連経費を減額する。なお、減額する分は、留保財源として予備費に計上する」と修正案を提出しました。これには市民ネット改革の吉田侃議員、滝沢いっせい議員も賛成しましたが、賛成少数で否決されてしまいました。



【フタリシズカ】センリョウ科の多年草。漢字で「二人静」と書きます。白く立っているのが花序。名前は2本の花序を静御前とその亡霊の舞姿にたとえたものといわれます。花序が1本だけのヒトリシズカも同じくセンリョウ科で、静御前の姿が名前の由来です。